

4. 県内の医療体制

4

県内の医療体制

21世紀に入り、専門医制度の確立、国内における各がん種に対するガイドラインの作成と普及、がん診療連携拠点病院制度、がん対策基本法をはじめとする法整備、がん対策推進基本計画、そして個々のがん治療医の意識変革により、我が国のがん医療は大きく変わり、進歩しました。どこに住んでいても標準治療（現在利用できる最良の治療）を受けられる体制が整い、それは沖縄県でも実現できています。

内視鏡治療、胸腔鏡下手術、腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術、強度変調放射線治療、密封小線源療法、核医学治療、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬による治療など、標準治療に必要な治療はすべて県内で受けることができます。

(1) がん診療連携拠点病院制度

全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供などの役割を担う病院として、国が定める指定要件を踏まえて、厚生労働大臣が指定した病院です。

■ 都道府県がん診療連携拠点病院

都道府県で中心的な役割を果たす。

■ 地域がん診療連携拠点病院

都道府県の二次医療圏で中心的な役割を果たす。

■ 地域がん診療病院

がん診療連携拠点病院とのグループ指定により、二次医療圏で中心的な役割を果たす。



コチラもCheck! 『がんになったら手にとるガイド』

- ➡ 「療養生活を支える仕組みを知る」
- ➡ 「地域のがん診療の連携の仕組みを知っておく」

(2) 希少がん

希少がんとは、発生の稀ながんを示す言葉です。沖縄県内では、希少がんの診療経験が豊富な琉球大学病院および県立中部病院での診察が推奨されます。希少がんの詳しい情報に関しては、国立がん研究センター希少がんセンターのサイトをご覧ください。

国立がん研究センター希少がんセンター ➡ P17

(3) 小児がん

小児がんは大人のがんに比べて患者の数が少なく、こちらも診断や治療の経験が豊富な医療機関での診療が推奨されます。沖縄県内では琉球大学病院と沖縄県立こども医療センターがその医療機関にあたります。診療所を含むどこの小児科で最初の診断がされても、前述の2つの病院に紹介されることが確立されていますので、ご安心ください。



国立がん研究センター 小児がん情報サービス



だんじゅかりゆしや

サーかりゆし

いら み
選でい差し召しえる

ふに ちなとう
船ぬ綱取りば

かじ まとうむ
風や真鱸

サーサーかりゆし

(だんじゅかりゆし)

4

県内の医療体制

(4)がん診療を行う医療施設の一覧

4

県内の医療体制

病院名	大腸がん	肺がん	胃がん	乳がん	子宮がん	肝臓がん	胆道がん	膵臓がん	食道がん	前立腺がん	甲状腺がん	血液腫瘍	放射線療法
県がん診療連携拠点病院													
琉球大学病院	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域がん診療連携拠点病院													
沖縄県立中部病院	○	—	○	○	○	—	—	—	—	○	○	○	○
那覇市立病院	○	—	○	○	—	—	○	○	—	○	—	○	○
地域がん診療病院													
北部地区医師会病院	上記のがん診療連携拠点病院と連携してすべてのがんに対応しています。												
沖縄県立宮古病院													
沖縄県立八重山病院													
その他の医療機関													
たいら内科クリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
中頭病院	○	○	○	○	—	○	○	○	—	○	—	○	○
中部徳洲会病院	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○	—	○	—
ハートライフ病院	○	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国立病院機構 沖縄病院	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
浦添総合病院	○	—	○	○	—	○	○	○	—	—	○	—	—
宮良クリニック	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マンマ家クリニック	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—

4

県内の医療体制

病院名	大腸がん	肺がん	胃がん	乳がん	子宮がん	肝臓がん	胆道がん	膵臓がん	食道がん	前立腺がん	甲状腺がん	血液腫瘍	放射線療法
沖縄赤十字病院	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	○	○
沖縄協同病院	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
那覇西クリニック	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
那覇西クリニック まかび	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
南部医療センター ・こども医療センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
南部徳洲会病院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	○	○
友愛医療センター	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○

(2024年6月時点)

■がん診療を行う医療施設

沖縄県が2023年に実施した医療機能調査で、「がん診療を行っている」と回答した県内医療施設のうち、掲載要件を満たすことが確認された医療施設です。掲載されていない医療施設においても、がん診療を行っている場合があります。

この掲載要件の選定には、がん種ごとに県内を代表する医師が集まって検討しています。専門家の検討を経て決定された掲載要件を満たした医療施設ですから、一定の質を確保していると考えられます。

出典：沖縄県公式ホームページ（保健医療介護部健康長寿課）
がん診療を行う県内医療施設



医師の異動等で対応できるがん種や治療の範囲が変わる可能性もあります。詳しくは各病院にお問い合わせください。

セカンドオピニオンおよび実施施設の連絡先 → P15
がん診療を行う医療施設の連絡先一覧 → P26

(5) がん診療を行う医療施設の連絡先一覧

(電話は代表番号、2025年1月時点)

4

県内の医療体制

■がん診療連携拠点病院

県	琉球大学病院 ☎098-894-1301 〒901-2725 宜野湾市字喜友名1076
地域	沖縄県立中部病院 ☎098-973-4111 〒904-2293 うるま市宮里281
	那覇市立病院 ☎098-884-5111 〒902-8511 那覇市古島2-31-1

■地域がん診療病院

北部	北部地区医師会病院 ☎0980-54-1111 〒905-8611 名護市字宇茂佐1712-3
宮古	沖縄県立宮古病院 ☎0980-72-3151 〒906-0013 宮古島市平良字下里427-1
八重山	沖縄県立八重山病院 ☎0980-87-5557 〒907-0002 石垣市真栄里584-1

■その他の医療機関

北部	たいら内科クリニック ☎0980-53-0033 〒905-0011 名護市宮里6-8-7
中部	中頭病院 ☎098-939-1300 〒904-2142 沖縄市字登川610
	中部徳洲会病院 ☎098-923-1091 〒901-2393 北中城村字比嘉801
	ハートライフ病院 ☎098-895-3255 〒901-2492 中城村字伊集208
	国立病院機構 沖縄病院 ☎098-898-2121 〒901-2214 宜野湾市我如古3-20-14
南部	浦添総合病院 ☎098-878-0231 〒901-2102 浦添市前田1-56-1

4

県内の医療体制

南部	宮良クリニック ☎098-878-3311 〒901-2132 浦添市伊祖2-3-1 2F
	マンマ家クリニック ☎098-988-4141 〒901-2111 浦添市経塚633 メディカルKプラザ2F
	沖縄赤十字病院 ☎098-853-3134 〒902-8588 那覇市与儀1-3-1
	沖縄協同病院 ☎098-853-1200 〒900-8558 那覇市古波蔵4-10-55
	那覇西クリニック ☎098-858-5557 〒901-0154 那覇市赤嶺2-1-9
	那覇西クリニック まかび ☎098-884-7824 〒902-0068 那覇市真嘉比2-29-22
	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター ☎098-888-0123 〒901-1193 南風原町字新川118-1
	南部徳洲会病院 ☎098-998-3221 〒901-0493 八重瀬町字外間171-1
	友愛医療センター ☎098-850-3811 〒901-0224 豊見城市字与根50-5



(6) 離島とがん ～通院治療の選択～

■ 宮古島、石垣島以外の離島で暮らす方へ

地元の医療機関でできることが限られているため、心配も大きいと思います。しかし、今は必要であれば、すみやかに地元の医療機関から必要な医療機関に紹介されます。特に前述した拠点病院（含む診療病院）は、医療だけでなくさまざまな相談に応じることができますので、離島の患者さんは積極的に利用することをおすすめします。

また、主な治療の終了後は、治療した医療機関だけでなく、地元の医療機関でも経過観察をすることが大切です。必ず地元の医療機関でも、がんの治療後の経過観察をしてもらうようにしましょう。

飲み薬での薬物療法（抗がん剤、ホルモン剤など）が必要なときは、地元の医療機関でも治療継続が可能です。主な治療を行った医療機関の医師に、地元の医療機関でどのように治療を継続していくかを相談してください。

■ 宮古島、石垣島で暮らす方へ

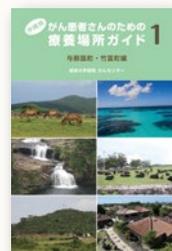
それぞれ、地域がん診療病院である県立宮古病院と県立八重山病院があります。希少がん以外のがんの治療が可能ですので、がん患者の7～8割の治療を行うことができます。また、希少がんでも、主な治療を行った病院との連携により、ほとんどの場合は治療の継続や経過観察が可能です。

さらに、前項でも述べましたが、より自宅に近い医療機関での経過観察や飲み薬での治療継続が可能ながあります。それぞれの病院の医師に地元の医療機関でどのように経過観察、または治療を継続していくかを相談してください。

* 離島におけるがん医療については、本冊子以外に、「がん患者さんのための療養場所ガイド」があります。離島ごとの詳しい情報が記載されていますので、ご参照ください。2025年7月頃に県内のがん診療を行う医療機関や離島・へき地診療所で配布予定です。

離島やへき地に住む人向けの制度を知る [P82](#)

沖縄県 がん患者さんのための療養場所ガイド シリーズ全8巻



1
与那国町
竹富町編



2
石垣市編



3
多良間村編



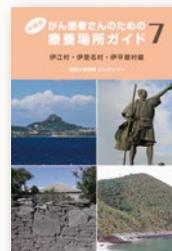
4
宮古島市編



5
本島周辺の離島村編
南大東村・北大東村
渡嘉敷村・座間味村
渡名喜村・粟国村



6
久米島町編



7
伊江村・伊是名村
伊平屋村編



8
本島北部編
名護市・本部町
今帰仁村・大宜味村
東村・国頭村



体験談

私の病床体験

左耳の下部に急に違和感を覚え、押すと痛みもあったので、近くの病院を訪れたのは2002年のこと。1週間ほど抗生剤を注射したものの改善せず、少し遠い総合病院を紹介されました。

そこでは通院による点滴での抗生物質の注入を行いました。腫れも引かず、痛みも増してきたため、入院の上、患部を切開して生体検査に。2週間ほどで「急性・悪性リンパ腫」とわかり、すぐに他の病院へ連絡を取ってくれて、翌日入院。今度は患部の生体と背中から取った骨髄を検査に出したところ、リンパ腫に加え、ATL（成人型T細胞白血病）もあると診断されました。

即座に無菌室に移され、そこから24時間打ちっぱなし、週5日4週間にわたる抗がん剤治療が始まったのです。考える余裕などまったくありません。毎日の処置、治療に耐えるので精一杯。それが終わると放射線治療。いわゆる「がんの標準治療」です。

これをひと通り終了して、約5ヵ月の経過観察ののち退院。しかし退院時の注意事項（人混みには行かない等）を受け、約2年間は引きこもり生活を経験しました。その後、担当医のすすめでぴあポーターの研修や講習を受けるようになり、19年が経った今ではぴあポーター活動にも積極的に取り組んでいます。

私は自身の体験からこう思うのです。「心の扉を開けて呼びかけてみよう。きっと誰かがあなたの声に耳を傾けてくれる!!」

(70代 男性)

あなたに合った
治療法と一緒に
考えましょう。



同じ病気の人のお話を聞いてみる → P40

コチラもCheck! 『がんになったら手にとるガイド』

→ 「治療法を考える」

